

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

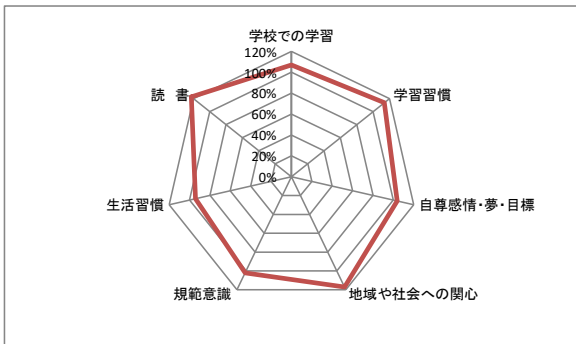
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.8 | 63 | 11.0 | 69 |
| 全国 | 9.1 | 65 | 11.2 | 70 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「読むこと」の正答率がやや高かった。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よくできた問題 | 文の中における主語と述語との関係を捉える問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題 | |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的には全国正答率をやや上回っていた。「図形」「変化と関係」に関する正答率が高かった。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よくできた問題 | 複数の図形を組み合わせた図形の面積について量の保存性や量の加法性を元に捉え、比べる問題 | |
| | 努力が必要な問題 | データを二次元の表に分類整理する問題 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で自分で計画を立てて学習に取り組んでいる児童の割合が高く、学校の学習においても「自分の考えを相手に伝える」「課題に自分から取り組む」などの割合が高く、学習に能動的に取り組んでいる児童が多いことがうかがえる。 ・一日あたりの読書をしている時間が全国平均より多い。 ・テレビゲームをしている時間が長い児童が多く、携帯電話やスマートフォンに関する家庭での約束が守れていない児童の割合が高い。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 自主学习ノートを活用するなど、その児童の実態に合わせて発展的な内容の学習も家庭学習に取り入れることができるようにする。
- 国語科の学習において、これまでやってきている「言語事項」に関する学習指導をさらに充実させる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 外部からの講師を招くなどして、携帯電話・スマートホンの使い方についてなど規範意識についての指導を行う。とくに長期休み前の学級指導においては、全学級で行うようにする。また、配布物等を使って、家庭での生活についても継続的に啓発を行っていく。
- 中学校とも連携し、「携帯・スマホ電源10時OFF」などの取り組みを行っていく。